

「これは行き先きがあはつきり見えないままにその道中を一緒にするいわば旅なのかな？」

「いや逆さ。この旅の道連れがチームとなって目的地である演劇や劇場そして表現の在り^あか^か処を手續り込もうという魂胆さ。」

「追っても追っても逃げていく『ボクたちの劇場』だものね。容易じゃない。」

「言葉と身体そして時間と空間を相手に現実と虚構の区別をわざと曖昧にしながら洲男増力という道化にちょっかいをかけられ、それでも怯まず、道に行く。」

装いを新たにした「まつもと演劇工場 NEXT」が昨年始まり、今年秋、更に新しい仲間「二期生」を迎えます。

松本近郊以外の関東・関西、そして北陸等からの参加者が多数を占める「第一期生」は文字通り日常と非日常の「境界」を小脇に抱えこの松本で旅のまた旅を続けます。

「舞台表現って演技って自分と他人の行ったり来たりで気が付くと終りのない道行きみたいで面倒とわかっててもやめられない。」

と北陸からきたメンバーが呟きます。

「演劇は見えない世界の『地図』作りに似てないか？」

「それで『旅』が必要なんだ！」

松本在住と東京者が言いました。

加藤 直

(まつもと演劇工場 NEXT・工場長／劇作家、演出家)